From Academia

記憶制御の物質検出しやすく

京都大学の浜地格教授らの研究チームは記憶や学習を制御する脳内のたんぱく質の関わり合いを、生きた動物で検出できる手法を開発した。特殊な試薬を脳に注入して光を当てると、神経細胞が情報を伝達する際に関わっているたんぱく質を抽出できる。ヒトにそのまま応用するのは難しいが、サルなどの動物を使って、たんぱく質同士や神経細胞との関わり方などの解析を進められる。認知症やうつ病、てんかんといった病気の仕組みの解明や治療法の開発に役立つ可能性がある。

電子版「サイエンス」で最新情報をご覧になれます